

電気料金審査専門小委員会における指摘事項について

資料3

番号	委員等からの宿題内容	指摘の出された委員会	委員名	
前提計画				
1	水力発電量の減少については、前回は原発の影響で揚水発電が減っているという説明だったが、今回の説明では作業停止による部分が大きいということである。作業停止は絶対にやらなければならないものなのか、後ろ倒し等が可能なものなのか、明確に説明していただきたい。もう少し詳しい情報を見せていただき、精査する必要がある。	第16回	辰巳委員、 松村委員、 安念委員長	今回回答
2	北海道電力は適切な予備率は8～10%と言っているが、「適正以上を確保する」ことが理解できない。仮に適正が8%であれば、最大限で8%を確保すればよいのではないか。	第16回	辰巳委員	今回回答
3	新エネルギーに関して、北海道のポテンシャルは高いと言われているが、新エネを導入することによって燃料費削減にならないのか。新エネルギーについては、送配電等の系統の追加投資がない範囲で最大限織り込むということを検討いただきたい。	第16回	辰巳委員、 秋池委員	今回回答
4	太陽光発電は1.5倍近く増加する見込みを示しており、基本的には料金原価は上がらないとの説明だったが、送電線の敷設や周波数への安定策などで、コストがかかっているのか。実際のところ、新エネが消費者にとってメリットあるものなのかを確認させていただきたい。	第16回	河野オブ	今回回答
5	電気料金の価格弾力性は相対的に低いと考えられているが、これだけ大きな値上げ率なので、需要に無視できない影響を与える可能性がある。再値上げによる需要への影響を考慮するのか、無いものとするのか、早急に方針を決める必要がある。	第15回	松村委員	次回以降回答 (事務局資料)
燃料費				
6	石狩湾新港発電所の新設工事について、資材調達を競争入札によってコスト削減したということは評価すべき。LNGの調達について、他のガス会社と共同調達など、調達コスト削減のために何か検討していることはあるのか。	第16回	河野オブ	今回回答
7	前回の燃料費の審査ではいろいろと指摘をしたものの、北電から無理だと言われて前回の査定方針が出来たが、結果としては国内炭の調達は査定方針以上の調達が出来ている。この努力自体は評価すべきだが、サバを読まれていた部分が合ったのではないか。	第16回	松村委員	今回回答
8	メリットオーダーの徹底、燃料費については、修理期間の短縮化等、今までの発想を超えて検討いただきたい。燃料費増加分が経営を圧迫しているのは分かるが、1年しか経たないうちの値上げ申請であり、しかも値上げ幅が大きいことから、更なる燃料費の削減努力をしていただきたい。	第16回	秋池委員、 辰巳委員	今回回答
経営効率化				
9	経営効率化については、地域経済への影響にかんがみ、電変以外の部分についても詳細を確認させていただきたい。費用の支出を先延ばしすることが経費の削減なのか。例えば人件費について、従業員数を平成7年度から790名減らしているとのことだが、資金繰りが厳しい中で、今後更なる削減計画があるのか。	第16回	永田委員	今回回答
10	消費者として納得できる説明をして欲しい。示された資料では一生懸命に能率的な経営をしているのか疑問である。例えば資料7ー2スライド6では平成26年度に590億円程度の効率化を計画しているが、削減分はユーザーに還元することを検討して欲しい。消費者への還元について、追加的に達成した部分の還元をやりすぎると、効率化のインセンティブが削がれる面がある。	第16回	辰巳委員、 河野オブ、 秋池委員	次回以降回答
11	修繕費の繰り延べが大きいのが、補修を後回しにし、将来に負担を先送りしただけのものが含まれている可能性がある。原価算定期間終了後に急増するかもしれないので、全体で効率化を達成しているという説明には納得できない。	第16回	松村委員	今回回答
費用の配賦・レートメーク				
12	ユーザー負担の軽減につながる新たな料金メニューは検討できないか。消費者が自己防衛する際に、現時点でスマートメーターがない中でも、北電のメニュー提案が重要。消費者に向けて新しい料金メニューを発していただきたい。	第16回	辰巳委員、 河野オブ	今回回答